

親鸞さまの

【本文】

命 濁 中 天刹那にて

依正 二報滅 亡し

背正 帰 邪まさるゆえ

横にあだをぞおこしける

【意識】

人々の命ははかなくなり、あつという間の出来事のようにです。

諸行無常のみ教えそのままに、人もその周囲のものも存亡を繰り返しています。

阿弥陀様の「必ず浄土へ連れ往こう、まかせよ」とのおよび掛けに背を向けて、己のみを頼りとして顧みないため、

結果、いたずらに生きにくくなっているのです。

【私の味わい】

通り慣れた道すがら、見るともなく周囲を眺めると以前あったはずの何かのお店が更地になってたのに気づきました。はて、何のお店だったか、しばらく思い出せなかつたという事がありました。有るといふことも、無くなるということもあつという間です。

このようなはかない、といふことの一方にあるのは確かにある今、貴重な今です。お釈迦さまは、「過去を追うな。未来を願うな。過去はすでに捨てられた。そして未来はまだやってこない。(略)ただ今日なすべきことを熱心になせ」と仰っています。手の届かない過去、未来に囚われるのではなく、今を大切にすべきといふことでありましょう。

では、「今日なすべきこと」とはなんでしょう。仕事、家事、学業等々とも捉えられましようが、肝心なのは「南無阿弥陀仏」を聞き、称えることです。「南無阿弥陀仏」、つまり阿弥陀様は、「必ず浄土へ連れ往こう、この阿弥陀を抛りどころにせよ」と仰っています。何故そう仰るかという点、阿弥陀様ではなく、自分の考えや心ばかりを抛りどころにしているのが人であるからです。自分中心を抛り所とした言行をそのままに生きていくのではなく、「南無阿弥陀仏」を素直に聞き、仏さまを抛り所どころにしてお念仏を称える今日、今、これこそがお釈迦様の本意にかな適うことでしょう。

阿弥陀様のお心に生きる今は、はかなき命を抱えた身の輝く一瞬です。どんな過去を送ってきたか、どんな未来が待っているかを超えた最高の一瞬です。その一瞬にお念仏しつつ、毎日そして一年を積み重ねていければと思っております。(悠水)